

■キーワード

遅延 応答待ち時間 遠隔地間コミュニケーション コミュニケーション支援

■研究の概要

音声チャットやテレビ会議など遠隔地間でのコミュニケーションでは遅延の発生が避けられず、同時発音・言い直し・不自然な話題転換など会話の混乱が生じます。これは利用者にとって非常に不快であり、システムを使いにくしている原因の一つです。近年はブロードバンド環境の普及により以前と比べると遅延自体が小さくなってきていますが、完全に無くしてしまうことは困難です。そこで我々は、遅延を無くすのではなく『遅延があっても混乱することなく会話ができる』手法を提案しています。

■研究・技術のプロセス／研究事例

・相手側での再生状況の視覚化

遅延のある環境下で会話が混乱する原因の一つは、相手の応答を待っている時間が「相手に遅れて伝わっている自分の発言を聞いている途中」なのか「相手の応答が自分に遅れて伝わってくる途中」なのかを区別できないことです。そこで自分の発言が相手側で再生される過程を視覚化することによりこれらの区別を可能にし、遅延による会話の混乱を防ぎます。

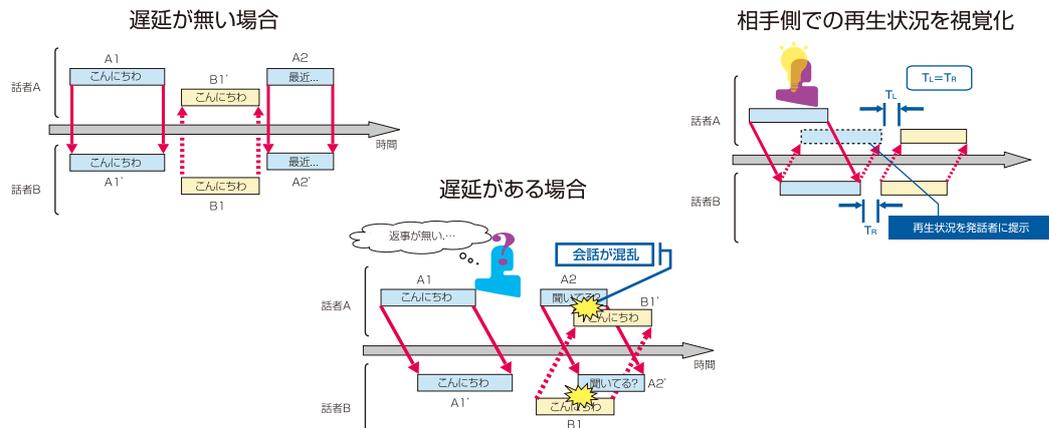
－相手側で再生中であることの提示

－再生過程(再生済みの時間、残り時間)をグラフィカルに提示

■研究・技術のポテンシャル

例えば、次のようなところに応用できます。

- ・テキストチャットシステム
- ・音声チャットシステム
- ・テレビ会議システム
- ・その他、遅延の発生が避けられないような状況下でのコミュニケーションシステム



■セールスポイント

遠隔地間で行うコミュニケーションでは、遅延を完全に無くすることはできません。遅延の発生を無くすのではなく、遅延があっても混乱することなく利用できる環境を実現します。

遅延が気にならない遠隔対話を可能にする
遠隔地間コミュニケーションにおける遅延の影響を軽減